

# Weekly Michael's News

<今週の聖句>

2018年6月4日発行 No.71 ミレー「落穂拾い」 1857年

『安息日は、人のために定められた。人が安息日のためにあるのではない。だから、人の子は安息日の主でもある。』  
(マルコによる福音書 第2章27～28節)

<記念すべき今だから心に留めたい…。学院創立者 八代斌助師父の超貴重な足跡を大公開!!>

神戸国際大学が今年度創立 50 周年を迎えている事は既にご存知の方も多いと思います。これから 9 月の記念式典に向けて様々な関連行事が多く準備されていますが、その関連で先週より 1 号館 1 階廊下に小さな展示コーナーが設置されました。なんだろう…?と近づいてよく見てみると、学院創立者である八代斌助師父の超貴重な資料の数々ではありませんか!! 戦後の日本を復興させるために世界を駆け巡り、教会だけでなく学校や幼稚園、病院や福祉施設など私たちの命に関わる環境の充実に人生を捧げた八代斌助師父。その偉大な働きを称えて当時の内閣総理大臣から寄贈された褒章や (メダルも!!) など、神戸国際…いや学校法人八代学院に連なる者はぜひ知っておきたい足跡の数々です!! 設立初期から学院との繋がりを持っておられ、今回の展示にも尽力された学院資料担当の佐藤信友さんの記された解説も面白くて理解が深まるものばかりです。「過去に目を閉ざす者は、現在に対しても盲目になる。」とは元西ドイツ大統領リヒャルト・フォン・ワイツゼッカーの名言ですが、創立 50 周年という記念すべき時を過ごしている私たちだからこそ、しっかりとその土台である八代斌助師父の足跡に目を向けていきたいですね!!



1号館1Fに特設された展示コーナー 褒章やポート (戦後民間人第1号!!) など貴重な資料の数々!! 必見!!

<ヒロシマ平和旅考 2018 始動!! 極東アジアの平和実現のために、必要な学びがそこにある!!>

私たちが属している極東アジアは激動の波に晒されています。歴史的和解が実現するののかと思えば、権力者の機嫌一つでその期待は一瞬で水の泡に帰してしまうかもしれない…。しかし、そのような時代だからこそ、私たち一人ひとりが自分の内側にしっかりと平和への想いを持ち続け、具体的な一歩を踏み出す事が求められると思います。キリスト教センターでは、今年度も平和を学ぶ貴重な出会いの旅、「ヒロシマ平和旅考」を実施いたします!! 参加希望者はキリスト教センターまでお問い合わせ下さい!!



教職員の参加も大歓迎です!!

## ＜先週のメッセージ＞

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

5月28日（月）テーマ：「少しの勇気で人の見方が変えられる」 上田 恵美子（経済学部）

約10年前、私はNPOの運営をしていた。その時、知的障がいを抱える人を3ヶ月ほど雇用する機会が与えられた。知的障がいを持つ方と接した事がなかった私はとても不安だったが、実際に接してみて驚かされた。私よりも大きな不安を抱えながら、しかし誠実に与えられた仕事に向き合い、達成感と充実感を得ていた。何より「人の役に立ちたい」という純粋な願いを土台に持っており、その出会いによって私は癒され、視野が広げられ、自分の持つ偏見を大きく変えられたように思う。障がいの有無に関らず、新しい出会いに於いても勇気を持って新たな一歩踏み出せば、物事を捉える目や人生観が変わるような出来事に出会えるだろう。

5月29日（火） ※この日は今年度初の音楽礼拝!! オルガニストの伊藤純子先生の演奏に耳と心を傾けました。KIUの宝であるパイプオルガンの響き、ぜひ皆さんもご鑑賞ください!! 次回は6月19日（火）です!!

5月30日（水）テーマ：「診たことを文字にする」 寛 裕樹（リハビリテーション学部4年）

この度、私は高知県の病院で最大13名の実習生と共に6週間の臨床実習を行った。大学や実習先の域を越えて様々な意見交換を行う事で、皆の中に「同じ道を志す仲間」という意識が生まれた。また特に今回の実習で得られた事、それは『記録＝見学した内容を文字にする事』の大切さだ。1日の見学内容や症例記録において、指導担当教諭から数多くの指導を賜ったがそれをどのように理解すれば良いか、何度も自問自答した。大きな問題に直面した時も、状況を的確に把握する上で「記録」が大きな力を果たした。実習が進むと、「記録」の取り方で実習生同士の繋がりを更に深めることができた。改めて「記録」の大切さを実感した。来週からの実習後半でも、今回の学びと経験、そして仲間との繋がりを大事に、精一杯取り組みたい。

5月31日（木）テーマ：「タイで学んだこと」 滋野 英憲（経済学部）

私は昨年9月から今年3月まで、半年間タイへ研究に行った。そこでの生活からタイの人々について様々な特徴が見えてきた。面白かったのが、日本人によく似ていて見栄を張る所だ。例えば、所得が低いのに良い車を持つとする。収入の配分が、ローン返済に3分の2、生活費に3分の1という人もいた。食事を切り詰めてでも人によく見られたい。そんなタイ人の姿から見えてきたこと。それは、どこの国も経済が発展し生活が豊かになると見栄を張り、周りの人の目を気にするようになるという事だ。お金持ちになる事が幸せと考えるようになるのはこの日本も例外ではない。お金に惑わされる事なく、本当の「幸せ」を目指したい。

6月1日（金）テーマ：「変容教育」～変わりつつ時代を生き残る己の作り方～ バナ・セオドア（経済学部）

今、我々は不安な時代に生きている。負の連鎖となった不景気や少子化が日本の経済や政治を不安定にさせ、全世界に広まる反グローバリズム運動や紛争と相まって未来の見通しが立てられない。約30年前、米国も同じ問題に直面した。多くの人が仕事を失い不安を抱えていたがそこで提唱されたのが Transformative Learning (TL)、「変容教育」だった。根本は3つ。まず第1に Critical reflection（反省能力）。自分を批判し、欠点を見つめ直して、改善方針を把握する。第2は Reframing（問題の見方を変える）。問題には、それが生じるフレーム（枠組み）がある、それを異なる角度から見つめて回答を見出す。第3は Social action（行動に移す）。己を知って、問題を把握したら、最後に、どんな行動すれば解決へと進めるかを考える。聖書ロマ書12章にも変容の必要性が説かれている。己を知り、課題の見方を変え、行動に移す事でどんな問題をも乗り越える事ができるはずだ。 （文責：野間 光顕）